

## 奈良県技師会総合管理部門アンケート報告(2)

～ 技師会会員個人意識調査～

三谷 典映(奈良県立医科大学附属病院) 枡尾 茂(奈良県立三室病院)  
森分 和也, 猪木 正允(奈良県立奈良病院) 嶋田 昌司(天理よろづ相談所病院)

【はじめに】 最近の医療情勢が厳しさを増すなか、検査技師を取り巻く環境も大きく変化しつつある。この先の見えない時代を、技師はどのように感じながら日々の職務を行い、将来にどのような夢を描いているのか。会員の意識調査を行いこれからの臨床検査技師の進むべき方向を探るべくアンケートを企画した。

【方法】 2003年5月に奈良県内の技師会会員全員を対象にアンケート調査票を配布し無記名で回答を求めた。調査内容は、年齢・性別・担当部署等個人の基本情報に加え、現在の仕事の業務量ややりがい、また検査技師を選んだ動機など個人の仕事に対する意識についての設問を設けた

【結果】 調査対象486名のうち236名の回答を得た(回収率48.6%)。男性36%女性64%。年齢は30歳代・40歳代が比較的多かった。業務内容においてやりがいを感じるかとの問いに、“感じない”22%に対して“感じる”が64%と多く、理由として臨床への貢献・職務の遂行による充実感・患者様とのコミュニケーションなどをあげる意見が多かった。また、やりがいのあるものにするための努力とし

て、自己研鑽・業務努力・他職種とのコミュニケーションをとるといった意見が多かった。また、検査技師の将来の見通しについての問いに、大変不安・やや不安と答えたのが合わせて81%と大部分の会員が将来に不安を感じていることがわかった。不安の理由として、医療情勢の悪化・外注化・合理化や効率化の推進・存在価値の低下といった意見が目立った。その不安の解決策を尋ねた問いには、技師のレベルアップ・業務拡大・診療支援などで存在価値を高める・法的身分の整備等いろいろな意見がみられた。

【考察】 紙面の都合上すべてのアンケート結果を示すことはできないが、今回のアンケート調査で検査室・検査技師の将来に対して不安を抱きつつも、職務に対してやりがいを感じ、医療スタッフとして前向きに努力していこうとする姿勢がうかがえた。しかし、現在の技師を取り巻く環境に対して、諦めにも似た意見も少なからずあることは否めない。将来のためにいま何をすべきか、熟考する時期なのかもしれない。

連絡先 0744- 22- 3051 内線 4204